



# Anchor

アンカー



・ バチカンが進化論認める—その意味  
・ SDAにおける進化論の流行、風靡—その意味

No. 19



バチカンが進化論認める—その意味

SDAにおける進化論の流行、風靡—その意味

バチカンの世紀の声明! ..... 1

SDAの動向 ..... 4

6000年の地上歴史(預言の霊) ..... 15

背教のアルファとオメガ

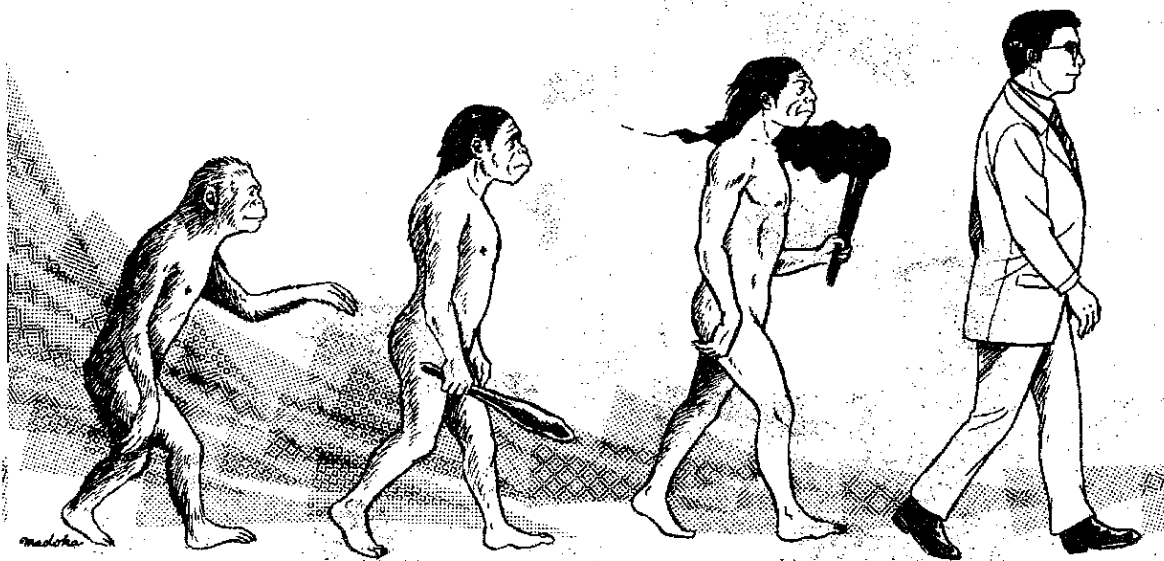
背教のアルファ ..... 17

背教のオメガ ..... 18

ニュース・コラム ..... 20

「1888年のメッセージ—信仰による義認」

グアム島セミナーに参加して ..... 22



★教会が進化論を認めるようになったということは、何を意味するのであろうか？

1. 聖書には誤りがあるということになる。しかし、聖書は「すべて神の靈感を受けて書かれたもの」であるから完全であり(詩篇19:7, 8)、無謬である(大争闘上、序)。「人間は誤りを免れない者であるが、神の言葉は無謬(誤りがないこと)である」1 SM4 16。

2. 創生記の六日間は字義通りではなく、一日一千年、あるいはそれ以上の長い間の期間を表すということになる。

3. 神ご自身が書いた十戒の第4条は誤りであることになる。しかし、十戒には、主は六日のうちに天と地と海とすべてのものを造ったと書いてある。

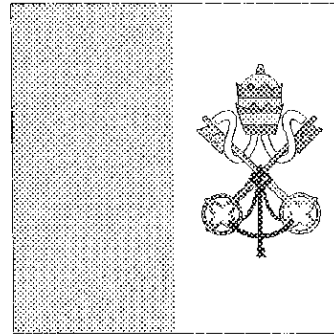
4. 聖書の第七日目(安息日)であるという真理は崩れてしまうことになる。進化論を認めるということは、「十戒の第4条の戒めの効力を破壊することになる」3 SP 92。

5. その結果、聖書の権威よりも教会の権威が上だとするカトリック教会は正しいと認めることになる。

6. 神が世界を創造したのではなく、進化したとするなら、神のみ言葉を字義通りにとってではなく、解釈権は教会にあることになる。また、神の十戒の第4条が誤りであるとするな

ら、神の権威を否定することになる。法王レオ13世は「法王はこの地上においては全能の神の地位を占めている。神そのものであるがゆえに、すべての者は、ローマ法王に対し、敬意を表し、絶対に服従しなければならない」と言っている(幸福への鍵188)。「全地は驚き恐れて獣に従い」という黙示録の預言が成就する有利な立場を築き上げる時が来たのであろうか。

7. 法王は無謬ではないことが、この事でも分かる。パチカンはダーウィンの進化論を否定していたが、やっと今になって認めたのである。法王無謬は1870年から主張するようになったという。



VATICAN CITY STATE

8. 肉体は自然発生した単純な生命が、長い進化の過程を経て、ついに人間になり、精神はある時点で神が与えられたものとするなら、聖書の真理に反する。人間は神がみ手をもって土のちりて人を造り、命の息をそ

の鼻に吹き入れられた瞬間に「生きた者」(living soul)となったのである。肉体を離れて精神、あるいは靈魂は機能しない。カトリックの教えは靈魂不滅、心霊術そのものである。

9. ローマが進化論を認めるということは、法王制拡大強化の道を開き、法王制が受け入れられる道を用意しているのである(大争闘下330、331)。ローマの世界支配の手段、戦略と見るべきである(大争闘下321)。1989年の暮れに、相対立する無神論権力(共産主義)はついに、「北の王」ローマに敗れて、折衷、合体した。今度は進化論を吸収することによっ

て、彼らの更なる有利な立場を築きあげようとしているのである。2世紀から4世紀にかけて、同じ事が行われた。教父たちはプラトンの共産主義的、進化論的哲学を教育制度に取り入れた。これが教会を腐敗させ、政教一致への道を開いたのである。ユスチアヌスとオリゲンはキリスト教会は世の偉大な人々の前にキリスト教を擁護するためには哲学、科学の知恵が必要であると説いた。英国百科事典に、「科学とキリスト教の信仰、最高の文化と福音を和解させることによって、オリゲンは古代世界をキリスト教に勝ち取ることに於いて他の誰よりも貢献した」とハーナック教授は書いている。ついに4世紀にはユセビウスの提案によって日曜休業令がコンスタンチン帝によって発布されるに至ったのである。歴史は繰り返す。世

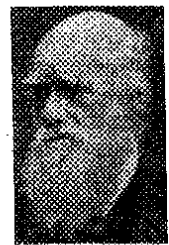
界的な政教一致、日曜休業令、世界統合、そしてローマの世界支配への踏み石を据えたことになる。

及川吉四郎先生は「日本教の正体は何か」という本に非常に興味深く、日本の国家、家庭、個人、社会風俗、宗教の中に見られるシンクレティズム（重層性、複合性）を説明している。「『日本教』の内容をひとことで、『シンクレティズム』と規定したい」と言っておられる（日本教の正体は何か p 2）。

シンクレティズムとは「互いに異なる宗教や哲学を折衷し調和させようとする試み。折衷主義」と定義されている（日本語大辞典）。つまり日本の宗教は折衷主義、混合主義ということである。

## ★バチカンがシンクレティズムのプロ？

まさしくカトリック教会はシンクレティズム教と言えよう。「ローマ・カトリック教会は、異教とキリスト教との形式を結合したもの」（大争闘下3 2 6）である。そして今、「聖書を世に与えた」と自負して、「聖書は神の言葉」として人々に教えてきたはずのカトリックが、進化論とも調和、混合するに至った。無神論の共産主義とも共存し得る教会（淫婦）（黙示録 17:1）なのである。ポーランド、ハンガリー、ユーゴスラビアなどの東欧諸国のみならず、全ヨーロッパの土台はカトリックとも言われている。キューバ、南米など、共産国でカトリックの国でないところはほとんどないと言われるくらい、両者が共存しているのは不思議ではないか。実は、カトリック思想も共産主義も、ルーツはギリシャ哲学、プラトーンと言われている。



る。ローマ・カトリックはどこにおいても、その国の民族の思想、宗教とも混ざり得る不思議な「獣」である。ヨハネの黙示録には「あらゆる汚れた霊の巣くつ」と表現されている（黙示録 18:2）。マザー・テレサもヨハネ・パウロ二世もすべての宗教をたたえている。ヒンズー教徒には、良きヒンズー教徒になれ、イスラム教徒には、良きイスラム教徒になれと説く。ヒン

ズー教徒の"Namaste"の挨拶「私のうちにいます神は、あなたのうちにいます神によるしくと  
言っています」を取り入れる。あらゆる宗教、  
神道、仏教、儒教、ユダヤ教、ジャイナ教、シー  
ク教、ゾロアスター教、オカルト、ニューエイ  
ジ運動、神秘宗教も吸収できるのである(A  
Woman rides the Beast, Dave Hunt 4 1 8)。  
だから「大いなるバビロン」(混乱)と呼ばれて  
いるのである。(黙示録 1 8 : 2)。すると「日本

教」はこの世界大宗教、バビロンーカトリシズ  
ムと容易に混合するであろう。神道、仏教の指  
導者とカトリックの関係は密になっているよ  
うである。

バチカンの進化論とのシンクレティズム(混  
合)は前にも述べたように、法王制拡大強化へ  
の道、政教一致への道、また全世界の政治、経  
済、宗教支配への手段であろう。

## ● SDAの動向

### ★ SDAの(著名人)が進化論へ転回?

パシフィック・ユニオン・カンファレンスの  
宗教自由部長、ジョン・ステイブン牧師が次  
のような報告をしたことがあった:

「ホイトン大学の歴史家、マーク・ノール  
は言った:『科学と宗教の戦いは終わっ  
た...もし宗教が権力と、自己卑下と、伝統  
に向いて、一方、科学は実験と、自己主張と、  
革新、刷新に向いているなら、当然そこには  
闘争がある...キリスト教界の至る所から  
強調されるようになってきているのは、今  
や交戦は止んでいるということである。そ  
れでも、みんながそのニュースを聞してい  
るわけではない。そのような進化論に対す  
る「創造論」擁護者たちはなお戦い続けてい  
る。』The Religion and Society, 2-8 7。  
メリーランドのタコマ・パークにあるスライ  
ゴ・セブンスデー・アドベンチスト教会で科  
学と宗教のセミナーが開かれた。そこでは  
地球の年齢は40億年で、初期の人類は2



~3百億年で、現代人は4万年経っていると  
教えている。この考え方を持つ者がSD  
A科学者の間に増えている...この教えは  
真理に全く反している。『今日の世界の年齢  
はたった6千年である。聖書の歴史なくし  
て、地質学は何にも証明できない...不信  
心者の推測は最初の週の出来事はその完成  
に7つの不定の長い期間を要したとし、第  
4条の戒めの安息日と真っ向から対立す  
る...それこそ最も悪どい不信心である』  
3 S G (霊の賜物) 9 0 - 9 6」。

スティーブン牧師は1988年にわが教会に進化論の及ぼす影響を嘆いて次のように警告した:

「我々は聖書と預言の霊によって、異端が入ってきて教会を震うということを知っている。聖書の教えとセブンスデー・アドベンチストが大事にしてきた信仰が挑戦されて、変えようとする働きが為されているのを見ると悲しくなる。終わりの時にはこれらの事が起こり得ることを私は警戒している。誤りが教えられていることを私は指摘したい。...

これを書いている理由は、今起こっている事柄に目を覚ましてもらいたいからである。そして神の靈感によって与えられた真理に固く立つように励ますのが私の目的である」。

聖書の創世記に関して、今や我が教会は危機に直面している。元世界総会の副総理ハミール博士が、引退して創造の問題に関する聖書と預言の霊の明瞭な言及を断固として否定した。彼一人ではない。かなりの学者が同じ様な考えを抱いているようである。彼の靈感を否定するような態度を教育界の指導者らが喜んでいるときには、特に危険を感じなければならない。

「これらの大陸のプレート(海底地盤)が分けられる何百万年も前に... 動物がこの地球に住んでいた。そのうえ、私はその地質年代を調べたところ、その地質年代は確かな根拠のあるものであること、他の生命が存在する前に他の生命体が絶滅していたことを... 認めざるを得なかった。有蹄類動物

や霊長類の動物、人間自身も、我々がよく知っている生命体は沖積世層の一番上の薄い層に存在していて、これらのものが存在する前に、多くの生命体は絶滅していたという事を認めざるを得なくなった。勿論そのことは、すべての生命体は6日間のうちに存在するようになったと教えられてきたセブンスデー・アドベンチストにとっては大きな進歩である。... 私は何年もの間、そう思っていたが、やっと1983年頃、自分自身にそれが正しいのだと言い聞かせるようになった。自然界において着実に積み重なっている証拠は、私が聖書を調べ、理解し、解釈する方法を再評価するよう迫られた(Reported in Spectrum, March 1996, the ellipses and square bracket are in the Spectrum quotation)」。

ハミール博士は元世界総会教育部の指導者であり、またアンドリュース大学の学長でもあった。彼は1989年に宣言するずっと前からそう考えていたことを告白した。勿論、自分の背教的見解を発表するに至ったのは、彼の扶助基金は確保され、昇級などは考えなくてもいい年齢にきて、引退してからのことであつた。

1994年4月2日にローマリンダ大学で集会が持たれた。そのパネル・ディスカッションにおいて分かった事は、今日のわが教会の科学者たちのかなりの者がハミール博士と同じ考えを持っていること、その傾向にあるということである。□バート・フォーケンバーグ牧師は、次のように言っている:

「去った安息日の午後、カリフォルニアに

おけるパネル討論会で、聖書の歴史的眞実性と創世記の創造の記録が、世俗による説得でなく、二人の引退した働き人、レイモンド・コットレル(元アドベント・レビューの副編集長)とリチャード・ハミール(元世界総会副総理、元アンドリュース大学の学長)によって攻撃された」(世界総会総理から、1994年4月4日)。

今日、教団のかなりの数の学者たちは、ハミール博士と同じ考え方を受け入れているという。ハミール博士の1989年の演説の後、現在のラシエラ大学の学長、ローレンス・ジェラティ博士はハミール博士の宣言を喜んで次のように言った:

「ハミール博士の180度の方向転換は、

教会の保守派の人たちを狼狽<sup>ろうばい</sup>させた。一方、進歩派は、ハミール博士の転回に歓喜をおさえることができなかった。1989年シアトルにおいてアドベンチスト・フォーラム連盟に、ローレンス・ジェラティがハミールを紹介した。1960年と1970年の間、彼がアンドリュース大学の若い教授として働いていた頃、ハミール学長が自分の手綱を引き締めようとしていたことに対していかにじれったく感じていたかを回顧した:『その時は、進歩派の彼を招いて証させるなどということは想像もできなかった。しかし、引退してから本当に進歩派の信仰に移り変わったことは、私が知っているアドベンチストの中の幾人かの一人である。私はそれをあっぱれと思う』(Spectrum 1996年3月)。

## ★SDAの科学者121人中、57%が進化論に傾く?

「1996年3月号のスペクトラム誌の記事は全部、『80年~95年の、アドベンチスト創造論』であった。それは我々の大学の、たいていの神学、科学の教授たちは聖書と預言の霊に対する信仰に欠けているという嘆かわしい事実をあらわにした。勿論、創造論を擁護するすばらしい例外もあるが、しかし、スペクトラム誌の記事は、特に不忠実な教授たちの羅列<sup>られつ</sup>であった。これらの挙げられた名前は完全なリストであるとは思えない。これらの神とそのみ言葉、そして眞理に不忠実な者たちを誉めていることは要注意である。この事実は大いに嘆くべき事である。1994年に北アメリカで我が教会の121人の科学者を調べたところ、

たった43%だけが『神が1万年以内に、6日間で生物を創造された』ことを信じたという結果が現れた(同上)。もし預言の霊で30回以上も断言しているように1万年を6,000年に減らせば、この43%という数字はおそらく、もっと減るであろう。

それにもかかわらず、これらの人たちは、組織からの承認状を持っており、我が教会の若者たちを教え続けるのである。専門分野の教授陣の思い切った整理がなされなければ、我が教会の新しい世代の青年たちの信仰を破壊しようと決心している者たちから青年たちを守ることはできないであろう」(Remnant Herald No. 29 1996年11月)。



### SDA学問のメッカ、アンドリュース大学も進化論の傾向か？

今日、創世記の記録をそのまま信ずることは非科学的だとし、進化論という科学と調和させて靈感の書を解釈しようという傾向がわが教会に目立ってきているようだ。

パウロは警告した。「テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの『知識』による反対論とを避けなさい。」(1テモテ6:20)。欽定訳では「偽りの科学」としている。現代の預言者、E. G. ホワイトも「偽りの科学」という表現を63回も使っておられる。

「物質的および霊的な面における人間の知識は、部分的で、不完全なものである。だから多くの者は、その科学的見解を、聖書に述べていることと一致させることができないのである。単なる学説や推測を科学的事実として受け入れる者が多い。そして彼らは、神のみ言葉が、いわゆる『偽りの【科学】(欽定訳)』によってためされなければならないと考える(1テモテ6:20)。創造主とそのみ

業は、彼らの理解を越えたものである。ところが彼らはそれを自然の法則によって説明できないために、聖書の歴史は信頼できないと考える」(大争闘下265, 266)。

預言の霊は地球の年齢を約6千年としている(引用文を参照)。約6千年と言っているところが42回、創造からキリストまでが4千年としているところが41回もある。6千年の地上歴史が幕を閉じようとしている今日、21世紀を迎えようとしている今日、約6千年でこの世界は終わり、キリストが再臨されるという従来の教えは実現不可能と思える今日、急速に靈感の言葉を科学的に説明する傾向が強くなってきたように思える。21世紀の暁まであと残されている数年間のうちにクリスチャンの内に恵みの王国が完成し、品性が完成し、「み国の福音」宣教が世界に完結し、キリストの再臨を迎えるということはあまりにも困難であることは確かである。サタンはそこにはつげこみ、「偽りの科学」をもって靈感に対する不信をまきちらすであろう。ノアの時も同じであった。

近年、盛んにSDAは変わったかということが論じられるようになった。さまざまな変化を見せられていることに戸惑いを感じている者は少なくはないと思う。創造論に関してもそうである。

1961年にSDA神学者のトップの一人であったデスモンド・フォード博士は、新しい神学を教会に吹き込んだことで有名であるが、地球の年齢は約6千年とするホワイト夫人の言葉も間違っていると申し出た。



山形謙二先生の記事を引用しよう。

「伝統的に教会は人類の歴史を約6千年とする立場をとってきた。それが聖書的解釈と考えられていたし、預言の霊の主張でもあった。ジョージ・プライス以来、S D Aの創造論もその枠組みの中で構築されてきた。

ところが1950年代以降、年代測定法の発達及びメソポアタミヤや古代エジプト文明の研究から、人類の歴史を6千年以内に収めることに困難を感じる人々が(特にアンドリュース大学等に)少なからず出てきた。当時のアンドリュース大学学長は、6千年説の問題点を世界総会のフィギュア総理に指摘している。フィギュア総理は教会として創造論と真剣に取り組む必要を痛感し、S D A地学研究所を創設して積極的にそれを支持した。

1966年ピアソンになると、彼は人類の歴史を6千年以上とすることは預言の霊による啓示に反するものとしてこれを退けた。(We still believe p 58, 63参照)彼の指導のもとに地学研究所も保守的になり、所長であった古生物学者リトランドは研究所を去っていくことになる。

ウイルソン総理になって2年後の1980年に創造論についての見解がアドベンチスト・レビューに発表された。年代については、6千年に言及するかどうかの多くの議論の後、結局は『地球上の生命と人類の歴史は(進化論の年代に比べて)短いことをはっきり示す聖書の時間的枠組みを受け入れる』という表現に落ち着いた(神戸アドベンチスト病院の「香油」1984年10月31日)。

スペクトラム誌には次のように書いてあった:

「リベラルな考えを持っているということで、我が教会の指導者たちの圧力で、ハーバード大学で訓練された、古生物学者のリチャード・M・リトランドは1971年に地学研究所の所長を辞任し、アンドリュース大学の生物学部に移った。世界総会の役人方は、この移行で教会全体に広がるリトランドの影響を制限できるだろうと思ったからである。しかし、彼に対して批判的である者たちは残念がっているにもかかわらず、今度は生物学の大学院生たちに改宗の感化を及ぼし続けた」(Spectrum p. 20 1996年3月)。

世界総会が、リトランド博士を地学研究所所長から退かせた理由は、彼は「地球と生命は非常に古いものであると信じ、この考えに従って聖書を解釈する方法を探り調べていた」からである(同上)。

ラッセル・スタンディツシュは次のように言っている:

「この世界総会のとった行動は正しかった。しかし、信じられないことに、彼らはリトランド博士を教授らや学者らの信仰を効果的に破壊したアンドリュース大学の教授陣に移行したことである。この取り決めは不注意であったばかりでなく、非難されるべき事であった。決定する人たちは、この人が靈感の言葉に関してほとんど関心がないことを重々知った上でなされたからである。

我々の大学の教授に任命する事に関しては最大の注意と聖書の真理を教えたいという熱望があってなされるまでは、我々の大学は青年たちを訓練するにふさわしい場所としないのである」。

上記のハミール博士の驚くべき声明は注意する必要がある。このようなことによって多くの者の信仰が全く破壊される危険があるからである。

### ★進化論を認めるということは、我々にとって何を意味するのか：

---

1. 聖書は大変な虚偽を含んでいることになる。なぜなら、聖書は、六日間の中にすべての創造がなされたとはっきり言っているからである。

2. 預言の霊は信じられないことになる。なぜなら、ホワイト夫人は幾たびも繰り返して、創造は6日間のうちになされ、約6千年前に起こったと言っているからである(大争闘上、序7)。

3. 神は石の板(十戒)に全くの誤りを書いた事になる。なぜなら、神はこの地球とその中のすべての物は六日間に創造されたと宣言されたからである(出エジプト20:8-11)。

4. このようにして安息日の真理は無意味なものとなる。なぜなら、神は六日間で世界を創造されたという事実に基づいて安息日の重要性を述べているからである。



5. この世界に罪が入ってきたという聖書の記述は神話にすぎないということになる。なぜなら、アダムとエバが創造される、あるいは人間がこの地球に存在する以前に死に、絶滅した生物があったことになるからである。このように、ハミール博士によると、人間の罪の前に死があったとするからである。

6. 今や聖書が明確に言っていることとは全く反対のことにも解釈し得ることになった(Remnant Herald No. 28 1996年10月)。

### ★靈感か科学か

---

マインドコントロールされやすい人間は、特に学問、科学に弱い。指導者に弱い。共同訳聖書の問題でアンカーに「靈感か学問か」と書いた事があるが、ある人は私の態度は学問や研究

を否定しているとして忠告している。聖書本文学においても全く反対のことを主張する学者がいるように、自然科学の分野においてもそうである。真の科学と偽りの科学がある(教育1

38)。真の科学は「聖書と矛盾するものは一つもない」のである。

「しかしながら、自然の中に観察されるいろいろなことがらから誤った推論が出されたために、科学と聖書の間に矛盾があるかのように想像されている。そうして両者の調和を図ろうとして、神のみ言葉の能力を傷つけ滅ぼすような聖書の解釈をしてきたのである。創造に関するモーセの記録の字義通りの解釈と地質学とは矛盾するように考えられている。地が混沌の状態から進化するには幾百万年の年月を要したと主張されている。そしてこの科学の想像的な啓示に聖書を適応させようとするれば、創造の期間は幾万年あるいは幾百万年という膨大な漠然たる年月であったと仮定されている」教育138。

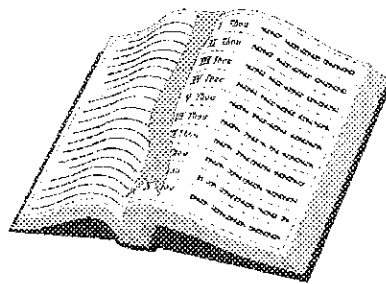
ホワイト夫人は、進化論を「推論」「想像」「仮定」と言っているのは興味深い。進化論は科学的な証拠のない推論だと指摘している。聖書を信じるクリスチャン学者が科学と聖書が矛盾するようになると、推論、想像、仮定を無理して「両者の調和を図ろう」とするなら、「神のみ言葉の能力を傷つけ滅ぼすような」結果になる。これはシンクレティズムとでも言えようか。

預言者は驚くべき明確な宣言をしている：

「聖書の歴史を度外視して、地質学は何も証明することはできない。…地中から発掘

される遺物類は、多く点で現在とは非常に異なった状態にあったことを証しているが、そうした状態が一体何時存在したかということは、聖書から学ぶほかはないのである」人あ上31。

わが教会における最後の欺瞞は預言の霊を無効にすることであるとされている。今流行している「新神学」は、聖書や、預言の霊は、救いの問題以外の、科学、歴史、地質学、医学…などの分野においては権威ではないと言う。聖書は無謬、誤りがないと言うのは正しくないと言う。そうだろうか。靈感の言葉に聞いてみよう：



「人間は誤りを免れない者であるが、神の言葉は無謬である」1 SM 4 16。

「われわれは、聖書を神の御心についての権威ある、間違いのない啓示として受

け取らねばならない」大争闘上序3。

「聖書は品性の完全な標準を提示している。それはあらゆる状況、できごとにおいて間違いのない指標である」5 T 2 6 4。

「神はご自分のみこころをその言葉、聖書を通してわれわれに啓示される。…どんな主題であろうと疑問があれば、まず聖書に相談しなければならない」5 T 5 1 2。

「神の言葉とみこころは靈感を受けた筆者たちによって聖書に表されている。…すべ



ての章、すべての聖句は神から人間への伝達である」4 T 4 4 9。(聖書を削除、追加、変更することは申命記に、箴言に、黙示録に、3回も強く警告されている。新共同訳聖書に削除されている章、聖句がどれくらいあるか調べてみるとよい)

「神の民の証しの書に対する信仰を弱めることがサタンの計画である。次に我々の信仰の重要点、我々の立場を明らかにする柱(複数)に関する疑いが続く、それから聖書に関する疑いが続き、そして破滅に降下していく」4 T 2 1 1。

「あなたが証しに対する信頼を失うなら、あなたは聖書の真理から流されてしまうであろう」5 T 9 8。

「旧新約聖書の記録が信頼に価するものであることを疑う者は、更に一步進んで、神の存在に関して疑惑を抱き、無限の力を自然界のせいにしてしまう。彼らは錨を捨ててしまった以上、無信仰という暗礁に乗り上げてしまうよりほかはないのである」大争闘下 2 6 6。

F. C. ギルバート牧師(ユダヤ人でSDAになった学者)は、ユダヤ人の若い者たちがアレ

キサンドリアで学んだギリシャ哲学と神の言葉を混合して民を教えることになって、メシヤを十字架につける道が備えられたと警告した:

「ギリシャの文化や学問の要求を相当受け入れることによって、イスラエルの指導者たちは名声と影響力を得ようと望んでいた。彼らは彼らの敬神深い先祖からゆずられた標準に辛抱強くしがみつくとよりは、世の教育の標準に同化することによって有利となるだろうと信じるように導かれた。このようにしてユダヤ人は彼らの影響力を多く失い、彼らの名声を維持することに失敗し、長年待ち続けたメシヤを拒んでしまったのである」(詳しくはアンカー 1 4 号参照)。

「神のみ言葉を説明するために、われわれはそのみ言葉を侵す必要があるだろうか」教育 1 3 9。

NHKのテレビ番組を通して一般大衆は「地球は約45億年前に誕生した」と信じ込まされている。まさに進化論という、聖書と証の書が言う「偽りの科学」によるマインドコントロールではないだろうか。人類の祖先は「今から二百数十万年前になって、ついに誕生した」と教えられる。

## ★進化論は非科学的であり、非聖書的である。

---

地球の年齢について、聖書の創造説を支持するような発言をしている学者は少なくはない。米国テキサス大学教授ハロルド・S・スラッシャー博士は、①宇宙塵の研究の結果、「宇宙

塵の堆積年数は、数十億年というより、むしろ5~6千年にしかならないことが分かる」と言っている。②ヘリウム含有量に関する研究から、デュアン・T・ギツシュ博士とリチャー

ド・B・ブリス博士は「放射能崩壊からヘリウムが大気に加わる率で測定するなら(たとえヘリウムが、いくぶん逃げたと考えても)、地球の年齢は約一万年である」と言っている。③海の堆積物の研究結果、S・E・ネピンス博士は「海洋は、約1万年、またはそれよりも、もっと若いものと信じるのは、たいへん理にかなっている」と言っている。④地球磁場に関する研究でも「地球の年齢は1万年以内ということになる」と言われている(久保有政著、科学の説明が聖書に近づいた、Part 1 参照)。

人類の年齢についても科学はかえって1万年以下を支持しているという。進化か創造かについては、久保有政著、科学の説明が聖書に近づいたPart 1, 2がレムナント出版から出ている。非常にわかりやすく、多くの資料が載せられているので、一読をお勧めしたい。

進化論を広めるために、多くの「誇張」や「でっちあげ」がなされた。類人猿から人間に進化した「証拠」として学者たちによって主張され、信じられてきたことが一つとして事実でなく、「でっちあげ」であったことが証明された。頭蓋骨や、歯、あごなどを類人猿のものだと言ったが、偽作であった。ある学者は学会に発表して、世にセンセーションを起こして、30年もしてから死ぬ前に猿と人間の骨を自分で組み合わせたことを告白した。

進化論を捨て去る学者も次々現れているそうだ:

「現在アメリカでは、創造論を支持する科学者の団体が、いくつもできている。1963年に設立された創造研究協会は、1000名近く

の博士号または修士号を持つ科学者の会員から成り立っているそうである。

真理を追究する学者は、聖書の創造説に立場を変える人もいるが、また創造説の方が有利であっても、あえてそれを受け入れようとならない学者も多いのである。では、なぜ、人々はいまだに進化論に固執するのだろうか?久保氏の言葉を引用しよう:

「それはこうした人々には、率直に言って、創造論の知識が欠けているからなのです。多くの進化論者は、創造論による科学的な説明について、十分な知識を持っていません。... 創造論に対してある種の嫌悪感をともなった先入観を持っているようです。米国シンシナチ大学の進化論者ロイス・モーア教授は、こう述べました。『進化の教義をわれわれが信じるのは、われわれが、相反する特別創造の教義(創造論)を受け入れたくないからである』。

人々が、進化の証拠がきわめて弱いことを知りながらも、なお進化論に固執するのは、その根底に、創造論に対する偏見があるからなのです。... 進化論には証拠が全くないのでから。」(Part 2 p5 2)

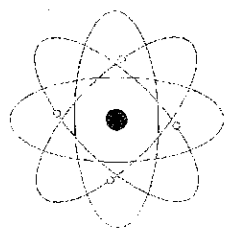
パウロはローマ1:19-22に次のように言っている:

「なぜなら、神について知りうる事からは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁

解の余地がない。なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり」。

「神を畏れ、神に栄光を帰せよ、創造主を礼拝せよ」との第一天使の使命を伝え、創造論を、安息日の真理を擁護するチャンピオンであるべきセブンスデー・アドベンチストの学識者たちの大半が、進化論に転向しつつあるということは、何と悲しむべきことであろう。

### ★科学を高める時が来ることを預言者は警告していた。



「エリヤはエリシャを畑から召して、献身の外套を彼の上にかけた。この大いなる厳粛な働き

の召しが学識があり、地位のある人たちに提供された。これらの人々が、自らを小さい者と見なし、主に全く頼っていたなら、神は彼らに勝利に次ぐ勝利の旗を掲げる栄誉を与えられたであろう。しかし、彼らは神から離れて世の感化に身を任せたので、主は彼らを拒絶されたのである。多くの者は科学を高め、科学の源である神を見失ってしまった。教会が最も純潔な時はそうではなかった」5 T 8 2。

「神は我々の時代に、僅かな者しか予期しないような働きを成されるであろう。神は世の科学施設で見せかけの訓練を受けた人たちによってではなく、聖霊の注ぎによって教えられた人たちを我々の内に起こし、引き上げられるであろう。これらの設備は神によって制定されたものなので、さげすまれたり、非難されるべきものではない。しかし、それらは外面的な資格を提供することしかできない。学識があっても、うぬぼれの強い人間に、神は依存していないことを

表されるであろう」5 T 8 2。

「神の明確な言葉と御霊の証に反する精神が存在する。神の啓示された知恵よりも、単に人間の理性を偶像視し、高める精神がある。責任ある立場の人たちの中で、聖書の真理または御霊の証よりも、数人の思い上がった、いわゆる学者の意見が信頼されるべきだと考えている人たちがいる。パウロやペテロ、あるいはヨハネのような信仰は古臭くて、現代には不適切であると考えられている。それは不合理かつ不可解なもので、知的な頭脳の持ち主にはふさわしくないと言明されている。多くの神々、多くの主が現れるであろう。あらゆる教理の風が吹きまくるであろう。

『いわゆる、偽りの科学』に最高の敬意を表している者たちは、指導者とはならない。知性、優れた能力や才能に頼っていた者たちは、その時大衆の指導者として立たない。彼らは光に従ってこなかった。自らが不誠実であることを証明した者は、その時群れを任せられないであろう。最後の厳粛な働きには、偉大な人たちはほとんどたずさわらないであろう。彼らは自己満足し、神により頼まないの、神は彼らをお用いになる



することができない。主は忠実なしもべ達を持っておられるが、彼らはふるわれて試みられる時人々の前に現れる。バアルにひざを屈めなかった尊い人たちが今は隠されている。彼らはあなた方を照らしてきたまぶしいほどの光を持っていなかった。だが粗野で、魅力のない外面の下に真のクリスチャン品性の輝きが表されるであろう。昼間、天を見ても星は見えない。星は大空の定められた場所にあるのだが、目に見えない。夜になると、その純粋な輝きが見られるのである」5 T 7 9 - 8 0。

「懷疑主義と無信仰がしばしば科学という衣を着ているように見える。今日の時代、我々は至る所を見張っていなければならない。この手段によって我々の敵は幾千の者たちをまどわし自分の思いのままに人々をとりこにする。彼(サタン)が利用する科学は、人間の心に触れる科学で、ものすごいものである。この点で、彼はへびのごとく、神の見わざを崩すために気づかれないように入り込んでくるであろう」2 S M 3 5 1。

まとめ：

バチカンの進化論容認の宣言から、我々は何を学ぶであろうか？暗黒時代、彼らは聖書を抹殺しようとした。知的進歩の時代には聖書に対する信仰を破壊するのが彼らのねらいである：

「知的大暗黒の時代は法王制の成功に都合がよかったように見られてきた。しかし大いなる知的進歩の時代もその成功にとって

同じく都合がよいことが、実際に示されるであろう。神のみ言葉もなく、真理の知識もなかった過去の時代には、人々の目は欺かれ、幾千の者は、自分たちの足もとにはられた網が見えないでわなに捕らえられた。今の時代には、『偽りの科学』(欽定訳)である人間的思索(推測)のはなやかな光に目をくらまされている人が多い。彼らは網に気づかず、目隠しされたようにたやすくそれに入り込んでしまう。神は、人間の知的能力がその造り主からの賜物とみなされ、真理と義の奉仕に用いられるよう計画なされた。しかし、人々が高慢と野望を抱き、神のみ言葉よりも自分自身の説を高めるとき、知識は無知よりも大きな害を与え得るのである。こうして、聖書の信仰の基礎を覆す現代の偽りの知識(科学)は、知識の抑圧が暗黒時代に法王制拡大強化の道を開くのに成功したように、人々の喜ぶ形式をもった法王制が受け入れられる道を備えることに成功するのである」大争闘下330。

多くのSDAの学識者たちが進化論に転向しているということは、いよいよ、聖書と証の書に対する不信が急速にやってきているということである。サタンの最後の欺瞞は証の書を無効にすることであり、安息日を軽視する時が来ているということである。「教会の背教がローマとの距離を近づけている」(S T 1 8 9 4年2月)のであり、まさに危機の時代である。「キリストに従うと表明する者は、もはや特別にわかたれた民ではない。...教会は日ごとに世に転向しつつある」実物教訓195。

## 6000年の地上歴史(預言の霊)

1. 1864年 3SG92 聖書の記録を信じると称している多くの者は、創造週は字義通り、ただ7日間であるという考えと、この地上に見られる素晴らしいものの記録に、又、この世界は約6000年の年令であるということに当惑している。

2. 1868年 2T172 6000年近くのサタンの経験で、彼はその腕と狡猾さを一つも失っていない。その間、彼は人類に関する凡ての綿密な観察者であった。

3. 1872年 3T138 神は人間に、ゆがめられた習慣の結果、又、それが6000年も続いてきた結果、人間にもたらされた病気の積み重ねに耐えられるほどの素晴らしいバイタル・フォース(活力)を与えられたのだった。

4. 1872年 3T492 6000年もの間、人間が(神の律法を)絶えず犯してきたため、その結果(実)として、病、痛み、死がもたらされた。我々が終わりに近づくにつれ、食欲を欲しいままにさせるようにサタンの誘惑はもっと強くなり、克服するのがもっと困難になるであろう。

5. 1877年 2SP93 6000年の間、この大敵は神の政府に対して戦い続けてきた。そして、その欺瞞、誘惑の技術はますます磨きがかかってきている。

6. 1884年 GC下306、4SP371、SR394 このように新しい変装の下に、大反逆者サタンは、天において始まり、地上において6000年近く続いている、神に対する彼の戦いを、依然として続けるのである。

7. 1888年 GC上序7 かつて神の天使の中で最高の地位にあった偉大な頭脳の持主が、6000年の間、欺瞞と滅びの働きに主力をかたむけてきた。この長年の争闘の間に、サタンが身につけた腕前と狡猾さ、またその間にますますひどくなった残虐さの、あらんかぎりをつくして、彼は最後の争闘において神の民に迫るのである。

8. 1888年 GC下260 約6000年近くも続けられてきたキリストとサタンとの間の大争闘は、まもなく終わる。

9. 同上439 大争闘は、6000年にわたって続いてきた。

10. 同上443 サタンの反逆の働きは、6000年の間、「地を震わせ」た。彼は、「世界を荒野のようにし、その都市をこわし」た。彼は、「捕えた者をその家に解き帰さなかった。」6000年の間、神の民は、彼の牢獄に入れられてきた。

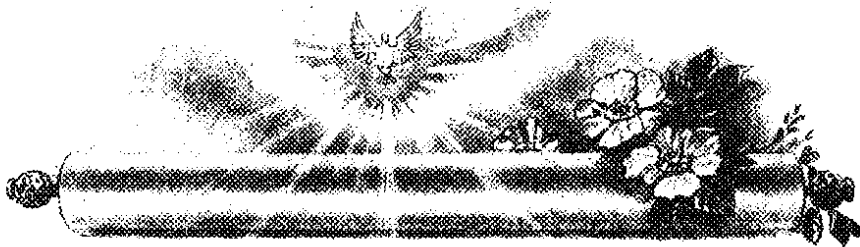
11. 同上460 サタンの破壊の働きは、永久に終わりを告げた。6000年の間、彼は自分の意志を実行し、地を災いで満たし、全宇宙を悲しませてきた。被造物全体が共にうめき、共に産みの苦しみをしてきた。今や神の被造物は、サタンの存在と誘惑から永久に解放された。

12. 1890年 人あ上27 過去6000年の間、人間が研究を続けてきた自然の法則と作用は、万物の創造者であり、維持者である無限のおかたによって、彼らに知らされた。

13. 1890年 人あ上403 贖罪の大いなる計画は、この世界を完全に神の恵みのもとに引きかえす。罪によって失われたすべてのものが回復される。人間ばかりでなく、地も贖われて、従順な者たちの永遠のすみかとなる。6000年のあいだ、サタンは地の所有を維持しようと努力してきた。だが、今や創造当初の神のみ旨が完成されるのである。

14. 1890年 CH19 人間は創造主のみ手によって造られたときには、その組織も完全に美しかった。人間が6000年間のますます増し加わる病気と悪の重荷に持ちこたえてきた事実は神が最初に人間に与えられた耐久力がどれほどのものであったかを実証している。

15. 1898年 希望中181 6000年の間、信仰はキリストの上に築かれてきた。





## 背教のアルファとオメガ

### 背教のアルファ

「ミニストリー」1977年8月号、6ページ

もし世界の出来事が暗示しているほど再臨が近いのであれば、エレン・ホワイトが主の来臨直前に我々の教会に迫ってくると警告した背教のオメガに注意しているべきである。「欺かれてはならない。多くの人々は、惑わす霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。今、我々の目前にはこの危機のアルファがある。そのオメガは最も驚く性質のものとなるであろう。」1 SM, 197。

神の働きにおける指導者として我々は、世紀の変わり目の直後に J. H. ケロッグ博士が推進していた見解によって、我が教会がやがて真っ二つに引き裂かれそうになったところの初期の背教、アルファの顕著な特徴を注意深く研究すべきである。我々がもし致命的な誤り（誤謬）の要素とそのアルファの破壊的働きを理解していれば、神の働きが完結する前に教会に襲いかかって来る背教をいち早く見破ることができよう。

預言の霊と幾人かの教会歴史学者や研究者たちがこのアルファの顕著な特徴として合意しているいくつかの点がある：

1) ケロッグ博士はその当時の自由主義的神学思想に汚染されていた。この背教は、神が再臨信徒の民に与えたメッセージとは全く異質の教理の巧妙な侵入によって影響された。

2) 彼の神学的異端はバトルクリーク・サナ

トリウム、バトルクリーク大学、そしてその医学校で教えられた。また2つの世界総会（1897と1899年）で幾度かその思想がほのめかされた。

3) この新しい教理は、アドベンチズムの使命を無視せざるを得なくなるほどの異なる神学的前提を提示していた。

4) アドベンチストの根本的神学を変えたであろう。これはアドベンチスト信仰の基礎を覆したであろう。

5) 神の賜物に対する信頼を弱め、また破壊するために預言の霊に公然かつ巧妙な攻撃の矢が向けられた。

6) 用いられた方法論では古い光のほかにも、「新しい光」を取り入れるはずであった。しかしそれは誤謬と混じていた。

7) ケロッグの新しい教理は特に選り抜きの知識人たちに魅力があり、幾人もの優秀な医師や牧師たちが彼と一緒に彼の見解を主張した。

8) 最終警告のメッセージの宣教が損失をこうおると知りつつ、教団の力を人道的方向に向

けようとする運動があった。

9)この新しい「運動」の指導者たちは、正式に責任者として選ばれた人々の手から病院と、恐らく教会の主導権も乗っ取るうと固く決意していた。

10)預言の霊の勧告に導かれて教会の指導者がとったすばやい(適切な)処置によって、避けられないと思われていた教会の衝撃的分裂を免れた。

これら10の点を一つ一つ注意深く検討していただきたい。指導者としてあなたは、確実に(もしかすると我々が思っているよりも早く)迫ってきている背教のオメガにおけるサタンの計画を綿密に知っておく必要がある。背教した「光の天使」が、教会が最後に経験する恐るべき収穫をもたらす種を、今すでに撒いていることはあり得るであろうか？

1930年10月23日のレビュー・アン

ド・ヘラルド誌に、編集長のF. M. ウイルコックス氏は、サタンの巧妙なアルファの攻撃を振り返ってみて次のように述べている:「25年前にこの警告が発せられたとき、危険は把握されて、迫り来る破局を避けるために真剣な努力がなされた。神はその努力に報いられた。しかしこれで、この教派によって掲げられている福音の真理を腐敗させるサタンの作戦が終わりとなるのではなかった。我々は、25年前に直面した邪悪な哲学は誤謬のアルファであって、後に誤謬のオメガが現われ、過去の偽りの教えが再び繰り返され、そして神の教会は新たな危機に直面しなければならないことをはっきり警告されたのである。」

「警告は警備」ということわざは知恵の言葉である(10月号の「ミニストリー」において背教のオメガについて考えることにする)。

「それゆえ、人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。あなたはわたしの口から言葉を聞き、わたしに代って彼らを戒めよ。」エゼキエル33:7。

## 背教のオメガ

「ミニストリー」1977年10月号、8ページ

今世紀の初期にセブンスデー・アドベンチスト教会はケロッグの背教を経験した。エレン・ホワイトによってそれは「致命的異端のアルファ」と描写された(1 SM、200)。この巧妙な反逆による損害だけでなく、更に破壊的背教を見て、主の僕は次のように書き記している:「欺かれてはならない。多くの人々は、惑わす霊と悪霊の教とに気をとられて、信仰から離れ去るであろう。今、我々の目前にはこの危機

のアルファがある。そのオメガは最も驚く性質のものとなるであろう。」(1 SM、197)。

8月号の「ミニストリー」において、「致命的異端」を持つアルファの特徴を再確認した。それは近い将来、再び教会の一致を脅かすものの前兆であったかもしれない。すべてのセブンスデー・アドベンチスト指導者が、背教した「光の天使」の、再臨運動の勝利を妨げようとする、巧妙な計画を祈り深く研究するように願う

ものである。聖書と預言の霊(特に1 SM、193-200)を読んでいただきたい。ひざまずいて、主の僕によって記された驚くべき事実を熟慮していただきたい。約70年前は、預言の霊の警告に従ったことによって我が教会は助かったのである。その同じ靈感の勧告に従うことによって、働きが完成される前に再び教会は救われるかもしれないのである。

オメガの働きの特徴としてエレン・ホワイトが警告していることを注意深く考慮すべきである:

- 1)「神の知恵によって残りの教会に与えられた真理の原則は放棄される。」1 SM、204
- 2)「真理は批判され、軽蔑され、また嘲られるであろう。」同上、201
- 3)それは「天来の真理を無効にする」であろう。同上、204
- 4)「我々の宗教が変えられるであろう。」同上、204
- 5)「もちろん、安息日もまたそれを創造されたお方も、軽く見なされるであろう。」同上、205
- 6)「過去50年もの間、この働きを支えてきた根本的原則が誤謬とされる。」同上、204
- 7)「セブンスデー・アドベンチストの間で大改革が起こり、そしてこの改革は我々の信仰の柱として立てられている教理を放棄することであるという想定がなされる。」同上、204
- 8)主知主義(啓示よりも知性を重んじる)の制度が導入される。」同上、204
- 9)この新しい哲学は「神の民の過去の経験を奪い去り、その代わりに偽りの科学を提供するであろう。」同上、204
- 10)それは、「我々の目前に迫っている光景

は特別に注意を払うほどの重要性を持たない」と教えることによって、再臨(またその直前の終末事件)のメッセージを弱めようとする。同上、204

11)「新しい種類の本が書かれるであろう。」同上、204

12)「新しい組織が設立される。」同上、204

13)「何ごとも、この新しい運動の道を妨げることは許されないであろう。」同上、205

この13の点を注意深く、また祈りを持って復習していただきたい。これらのことは、あなたが思っているより早く遭遇するかもしれない。このような背教の種は、我々の周りのキリスト教教会の中にさらに見られるのである。イエスが戻られる前に、セブンスデー・アドベンチスト教会はケロッグのアルファ背教の規模を越えるほどの危機に直面することは大いにあり得ることである。それは「最も驚く性質のものとなるであろう」(1 SM、197)。

どのようなことが神の民を待ち受けているかを知っていることは、指導者として我々に絶えず祈る必要を感じさせ、悪魔のすべての巧妙な動きに鋭敏にさせるはずである。これは神の教会であり、黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。しかし、神の指導者たちは決して油断してはならない。



---

---

## ニュース・コラム

---

---

### ● ローマ・カトリック, SDAは安息日について正しいと言う

「おそらく、教会がした最も大胆な最も改革的な変更は、1世紀に起こった(原文によると。しかし、4世紀が正確である)。聖なる日、安息日は土曜日から、日曜日に変えられたのである。「主の日」(dies Dominica)は、聖書のどこからも選ばれたものでなく、教会自身の権威によるものである。復活の日、ペンテコステの日は、50日後の、週の最初の日に来た。

それゆえに、これが新しい安息日となるのである。聖書だけが唯一の権威であるべきと思っている人々は、論理的にセブンスデー・アドベンチストとなって、土曜日を清く守るべきである。(Sentinel - Newsletter of St Catherine Roman Catholic Church, Algonac, Michigan 1995年5月21日)

### ● メソジスト教会の経験から学ぼう

メソジスト教会は、青年たちを保持し、教会員を増やすために、クリスチャンの標準を本気で下げ、カリスマ的な礼拝を取り入れることにした。その結果があらわになった。SDA教会はその愚かなことから学ばなければならない。かつてメソジストは几帳面に神のみ言葉に従うということで「メソジスト」と呼ばれたのであった。

「もし、今日の傾向が続けば、イギリスメソジスト教会は、次の世紀には早々と大英帝国から姿をけすであろう」とメソジスト・コネクショナル教会書記のピーター・バーベルは言った。

英国教団のメソジスト・レコーダー誌に、バーベルは過去3年間、イギリス・メソジスト教会員数は6.8%、教会出席率は9.6%、26歳以下の青年で教会に関与する者は19%も減少したと言っている。

彼はこの数字は『教団の時限爆弾』と呼んでいる。

『選択の余地が残されているとすれば、きっと事態は改善されるということを、望み得ないのに望み通す事だ』と書いている」(The Christian News, 1996年4月1日)

### ● 米国最高裁判所の裁判官は9人中6人カトリック

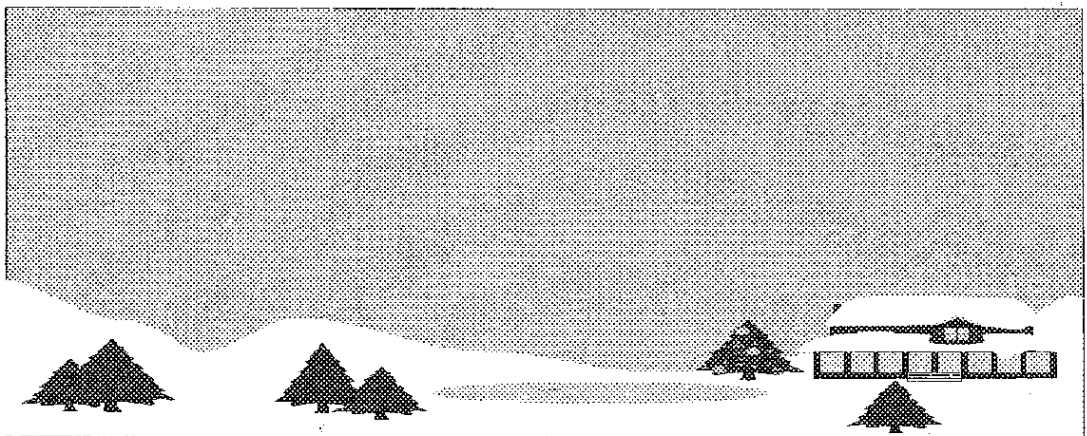
米国の憲法はプロテスタント主義と共和政体にのっとって作られている。1996年8月4

日、ワシントン・ポストは、米国紙上はじめて最高裁判官の座にローマ・カトリックの裁判官が多数を占める事になったと伝えた。9人中5人はローマ・カトリックで、たった2人がプロテスタントで、残り2人はユダヤ教と言う。建国200年経って、最高裁判の座についたのは101人であったが、その中で16人だけがローマ・カトリックであった。しかし、今日、現役の裁判官のうち5人がローマ・カトリックという。最高裁判廷がこれほどローマ・カトリシズムにどっぷり漬かると、米国の憲法がプロテスタント主義にもとずいていたときより、宗教自由を維持するのは困難になるのは目に見えている。これらの事は忠実なSDAにとって見逃せない時のしるしである。(Remnant Herald No. 28, 1996年10月)

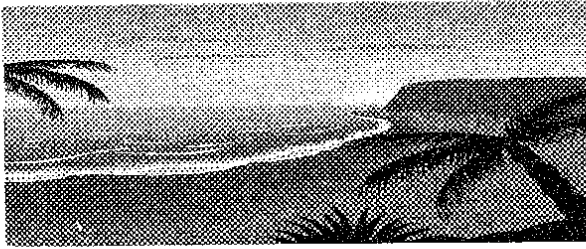
### ● 米国大統領候補の奥方と心霊術

11月に、米国大統領選挙でクリントンにドール候補が挑戦した。結果は現役のクリントンが再選された。米国大統領になったら、その夫人は米国のファースト・レディーと呼ばれる。ドール候補夫人、エリザベス・ドールは、占星術者のところにおいて占ってもらったそうだ。「あるワシントン占星術者が私の手のひらを見て、あなたは、政治においては小羊の如く、家庭においてはライオンのようにならなければならないと言ってくれた」とタイムズ誌は報じている(1996年7月15日)。一方、ロンドン・ウィークリー・テレグラム誌1996年7月号は、ヒラリー・クリントン夫人は、「ニューエイジの女性解放運動者のグールー(導師)に相談したところ、イエスキリストやマハトマ・ガンジーのような迫害された人物と会話するという『仮想治療』で彼女を励ました」と報じられた。同誌はまた、「あるクリントン夫人の女性スタッフと共にホワイトハウスでの会議している間、ホーストン女史は、フランクリン・ルーズベルトの妻、エレノア・ルーズベルトと『想像』のうちに会話をするように求めた」と言っている。死人と「想像」のうちに会話するというのは巧妙な心霊術で、人間をコントロールする悪魔の働きにほかならない。

米国のファースト・レディーたるものが、このような心霊術の背後にある力を知らずにいることは大変なことである。(Remnant Herald No. 28 1996年10月)



## 「1888年のメッセージ信仰による義認」 Guam島セミナーに参加して



11月28日から12月1日にかけて、Guamで開かれた「1888年のメッセージ・セミナー」に、はからずも参加する機会が与えられた。日本からは38名、サイパンから日本人が2名加わり、合計40人の参加者があった。英語を話す白人、またミクロネシア人合わせて約120名ほどであった。安息日礼拝の時は教会堂は満員であった。参加者は我々の教会に与えられたメッセージの素晴らしさに大いに感激した。講師は、1888年のメッセージにおいてはわが教会の第一人者の、ロバート・ウーランド先生であった。

私は30年前に、ロバート・ウーランドとドナルド・ショートとの共著「1888年再吟味」に出くわした。その本こそ実に私にとって、「目薬」であった。それはセブンスデー・アドベンチスト教会史で長年隠されていた事実を知るきっかけになった。しかもそれは再臨運動で最も重大な出来事であったばかりでなく、最も重要な真理が教会によって拒絶されたことを知らせてくれた。教会に後の雨—大いなる叫びをもたらす「三天使の使命・信仰による義認そのもの」という真理であった。我々の教会は絶好のチャンスを逸したのである。神のみ業を短期間に終わらせる天からの光を指導者たちが拒

んだのである。その時、教会は共同体としてひどく聖霊を侮辱し、使命の中に表されたキリストを十字架につけた。それ以来、教会は自らの傷をいやそうとして他教派の「キリスト中心の説教」、偽りの「信仰による義」を持ち込むが、背教はますます深くなっていった。

残念なことに今なお、1888年のエピソードについての曲解は残っている。二つの解釈のしかたがある。1888年のメッセージは、セブンスデー・アドベンチストが律法主義に陥って見失った、宗教改革時代の信仰による義認のメッセージの回復だとする考えと、それはセブンスデー・アドベンチストにのみ与えられた三天使の使命こそ信仰による義認そのものであり、またそれが全地を神の栄光で満たす大いなる叫びであり、再臨に民を備えさせる永遠の福音であるという考えである。前者の立場をとる者は、「信仰による義認は他教派も共有するもの」であると主張し、SDAはそれに特殊教理を付け足した教会であるというのである。後者は、他教派にはない、至聖所の働き、霊魂消滅、アダムが罪を犯して後の墮落した性質をとられたイエス、イエスの十字架の第二の死、裁きの時は来た、キリストとサタンの大争闘というモチーフのもとに信仰による義認のメッセージを理解する。

後の雨—大いなる叫びをもたらすはずであった1888年のメッセージを拒んでみ業完成、後の雨を乞うことは、ユダヤ人たちがすでに与えられたメシヤを拒んでいて今なおエ

ルサレム神殿の嘆きの壁で「メシアよ、来りませ」と祈るのと同じだとウィーランドは説く。ユダヤ人のジョセフ・ウォルフは、少年時代に1800年前に十字架につけられたイエスを待望のメシアであることを知って、再臨使命に立ち上がったのであった。我々も同じように、すでに大いなる叫びを啓示のうちに与えられた1888年のメッセージを拒否した事実、そのメッセージは何であったのかを知ることに、真のリバイバルとみ業完成があるとするなら、我々は、今こそ、そのことを徹底的に知る時ではないだろうか。日本で1888年の研究が燃え上がることを切に望むものである。「人の研究には完全なものはない」が、飢え渴く者は必ず聖霊によって「あらゆる真理に」導かれるであろう。

主は(安息日遵守者に)こう言われる、「あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ」と。我々の教会は神からの使命を拒みに拒み続けてきた。「しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った」(エレミヤ6:16)という強情さを捨てて「安息」を得る時が来ている。今日の「アドベンチストの焦燥」の原因はまさに1888年のメッセージの拒絶にある。古代イスラエルにとって、カデシ・バルネアがヨシユアとカレブのメッセージを拒んで荒野をさ迷う「分かれ道」になったように、1888年はSDAの「分かれ道」になった。主の僕は「ミネアポリス集会の時以来、かつてなかったほどのラオデキア状態をわたしは見た」(RH 1890年8月26日)と言われた。

1950年代は福音派教会との「妥協」の時代として知られている。1957年に出版された「教理に関する質問」は、SDAの信条を最もよく説明されたすばらしい本として全世界に配布された。しかし、それは、他教派に受け入れられたいとの熱望の産物であった。ここで我々はSDAとしての特殊教理をゆがめ、SDAのアイデンティティー(独自性)を曖昧なものにした。元アドベント・レビュー誌編集長、ケネス・ウッズも今日の教会の状態をつくりあげたのはこの時であったと指摘している(How we go there where we are)。アドベンチスト・ライフに1957年以来、我々は福音的に変わったというのは曲解である。我々は他教派から次のように指摘されている:「セブンスデー・アドベンチストは... いまだに彼らのアイデンティティー(独自性)を論じ合っている」(クリスチャニティ・トゥデイ、1990年2月5日)。1880年の「最も尊いメッセージ」「第三天使の使命そのもの」である信仰による義認のメッセージを見失ったからである。

古代イスラエルはついにヨルダン川を渡った。やはりヨシユアとカレブによってカナンに導き入れられたのであった。近い将来、我々もヨルダンを渡るはずである。やはり信仰による義認のメッセージが大いなる叫びに導き、み業完成をもたらすであろう。

「神と人類の敵は、この真理が明確に示されることを喜ばない。なぜなら人々がそれを十分に(完全に、しっかりと)うけると、彼の力が破られることを知っているからである」福音宣伝者161(「信仰による義—オルソン」に引用)。

### 「現代の真理」改訂版

「群れが今必要としているのは『現代の真理』である。」(初文137)

この本を正しく研究するなら、再臨信徒の困惑を整理し、魂の飢えを満たす。さまざまな教理の風に吹きまわされることのない。セブンスデー・アドベンチストとして、再臨運動の過去と現在と将来に確信を与えてくれる。

単純明瞭な説き明かし！キリスト再臨待望者の必読書！  
1,500円

### 「前途の危機」

「われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のある出来事と、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。」(大争闘下359)

「救いに至る知恵」をこの恩恵期間にはっきり学んで備えよう！元E・G・ホワイト刊行協会会長のR・オルソン氏の編集  
1,800円

### ビデオ：「どの聖書？」「WHICH BIBLE」

聖書が次々翻訳されることはありがたい。が神のみ言葉に対するサタンの挑戦は最も巧妙になされている。「聖徒たちによってひとたび伝えられた信仰」「混ぜ物のない真理」の聖書と改悪された聖書の二つの流れをたどる。ジョー・マニスカルコ



3,000円

### 近日発売予定：

本：『今は備えの時である』  
黙示録13章と14章に見る危機と勝利

ビデオ：『アルプスのイスラエル』  
L L Tプロダクション制作  
フルデンセスの驚くべき物語！

◆「光陰 矢の如し」という言葉がひしひしと感じられるこの頃である。今年こそはと思っていたら、もう師走の時節になった。変化、変革の90年代とはいえ、ローマ法王教のそれは、自分たちの有利な立場を得るための戦略的変化である。本質的な変化ではないことを見て、これからの演出を解しないと欺かれる。今こそ身をひきしめて最後の戦いの用意を

しっかりしたいものである。かつて敵とされていた共産主義とも共存し、プロテスタントとも共同作業し、進化論を認めるローマは、最後のプロテスタンティズムのSDAを取り込もうとねらっていることを忘れてはならない。

今こそ目を覚まして、キリストとの個的つながりを確かにしたいものである。

この印刷物は信徒の皆様のご祈りと自由献金によって続けられています。資料代や献金などの送金には郵便振り替えをご利用ください。

振替口座番号は下記の通りです。

02080-0-12121 サンライズ・ミニストリー

住所：〒905-04 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471

サンライズ・ミニストリー出版部 金城重博

皆様のご意見、ご感想などをお待ちしております。

TEL: 0980-56-2783 FAX: 0980-56-2881 E-Mail: anchor@cosmosnet.or.jp

